

五

五

利田

陸軍部第一九號

八月七日

(小林文吉印)

參謀本部 作第一九號

第十三師團長隸下部隊沿海州派遣

ノ件通牒

大正七年八月六日 參謀總長男爵上原勇作

陸軍大臣大島健一殿

聯合英國ト協同シテ、チエツク、スロワツク、軍ヲ救援ス

ル爲、第十二師團長隸下部隊ヲ沿海州ニ派遣セラレ

右ニ関シ、八月五日別紙ノ如ク、第十二師團長ニ訓令

セラレ、且ツ參謀總長ヨリ別紙ノ如ク指示致候條

及通牒候也

極秘

訓令

一、在沿海州チシクスロツク軍ハ露國過激派軍  
 及獨逸停虐軍ノ妨害ヲ排除シテ西伯利鐵道  
 沿線ニ在ル同胞救濟ヲ企圖シテリ而シテ同軍  
 ハ聯合與國軍ニ來著ヲ待テ一部ヲ該地方  
 ニ殘置シ主力ヲ以テ東清鐵道經由チタ方面  
 ニ前進スルニ企圖ヲ有シ該軍ニ對スル敵ハハバ  
 口スクニ方向ヨリ増援ヲ待テ目下烏蘇利河

線列吉...

日英米支各國艦隊ハ居留民保護ノ爲既滿  
 潮ヲ警備シ又我第三艦隊ノ一部ハ同一目的ヲ  
 以テ「デカストリ」灣及黑龍江方面ニ行動中ナリ  
 ニ「チエツクスロワツク」軍ヲ救援スル爲帝國軍ノ一部  
 (第十二師團ヲ基幹トス)ヲ先ツ沿海州ニ派遣ス  
 前記帝國軍及之ト同一目的ヲ以テ沿海州ニ派遣  
 セラルヘキ聯合與國(英米佛支)軍沿海州地方  
 ニ現在スル露國及過激派軍及「チエツクスロワツク」  
 軍ハ帝國ヨリ派遣スヘキ浦潮派遣軍司令官ノ指揮  
 ニ屬スル筈

三 第十二師團長、別紙第一、諸部隊ヲ指揮シ

聯合與國軍ト協同シ、チチウクスロツクト軍ヲ救援シ

沿海州ニ於ケル獨逸兩國及之ニ加擔スル勢力カラ

排除シ且該地方ノ治安維持ニ任スヘシ

四 第十二師團長隸下部隊中先ツ別紙第二ニ示ス

第一梯團ヲ輸送ス

第十二師團長隸下部隊中第十二師團ニテ乾

員(編成)セル部隊ノ外、浦潮上陸ノ時ヨリ第十

二師團長、隸下ニ入ラシム

第十二師團長隸下部隊中先ツ浦潮ニヨリスル

開、地區ニ確實ナル根據ヲ當、爾後情況ノ變化ニ  
 應、適宜其行動ヲ律スヘシ

六、聯合與國トノ和衷協同ノ實ヲ失ハサル如ク情況ニ  
 應、機宜ノ處置ヲ執ルヲ要スト雖常ニ主動ノ位  
 置ニ立テテ行動スルコトヲ努ムヘシ

七、行動地域内ニ於ケル帝國臣民ヲ保護シ且必要ナ  
 ル場合ニ諸外國人民ヲモ保護スルニ努ムヘシ

八、朝鮮總督關東都督在沿海州帝國艦隊指揮  
 官及帝國外交官憲ト密接ニ連絡ヲ保持スヘシ

九、前諸項ノ外細部ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

0074

大正七年八月五日  
奉勅 參謀總長男爵上原勇作

別紙第一

第十二師團長隷下部隊

✓第十二師團

✓獨立野戰重砲兵大隊

野戰電信第十八中隊

第一無線電信隊 (6)

第一航空隊 (6)

第十二師團第一兵站輸送縱列

第十二師團第二兵站輸送縱列

第十二師團第一輜重監視隊

第十二師團第二輜重監視隊

第十二師團第三輜重監視隊

第十二師團第四輜重監視隊

第 一 臨 時 測 圖 部	第 一 薪 炭 採 集 部	第 十 師 團 第 八 陸 上 輸 卒 隊	第 十 師 團 第 七 陸 上 輸 卒 隊	第 一 鐵 道 隊	患 者 輸 送 部	野 戰 豫 備 病 院	第 二 十 二 班	第 二 十 三 班
---------------------------------	---------------------------------	---	---	-----------------------	-----------------------	----------------------------	-----------------------	-----------------------



別紙第二

第十二師團長隸下部隊第一梯團

第十二師團司令部

步兵第三十五旅團

騎兵第十二聯隊

野砲兵第十二聯隊

獨立野戰重砲兵大隊

工兵第十二大隊

第十二師團電話隊

第十二師團衛生隊 (擔架一中隊)

第十二師團野戰病院一箇

野戰電信第十八中隊

第一無線電信隊

第一	第一	第十	第十	第一	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第一
臨時	薪炭	師團	師團	鐵道	師團	師團	師團	師團	師團	航空
測	採	第八	第七	隊	第四	第三	第二	第一	第一	隊
圖	集	陸上	陸上		輜重	輜重	輜重	輜重	輜重	監視
部	部	輸卒	輸卒		監視	監視	監視	監視	監視	隊
		隊	隊		隊	隊	隊	隊	隊	

# 極秘

## 指示

作命第一號訓令ニ基キ左ノ指示ヲ爲ス

一、<sup>一、</sup> 予ニシテハ、<sup>二、</sup> 軍ヲ救援スルニ方リ後、<sup>三、</sup> ヲリ之ヲ推進ス、

予力或ハ彼ニ共ニ其進路ヲ開クハキカハ上陸後ノ情況與國

軍トノ關係並爾後ニ於ケル行動ノ便否ヲ顧慮シテ適

宜之ヲ決定シ主トシテ速ニ所期ノ目的ヲ達成スルニ努ムルヲ

要ス

二、帝國政府ハ極東露領ニ於ケル及邊激派諸國體(滿洲政

府及ハ海軍如クニ、予ニテ獨擅勢力排除ヲ目的トスルモノニ對シテハ漸次

有力分子ヲ融合妥協セシメ以テ地方民意ヲ代表スル政治  
機關ヲ組織セシムルノ意嚮ヲ有ス

三 軍事行動地域ニ於ケル行政ハ地方ノ意嚮ト在來ノ習慣

トヲ尊重シ露國人ヲミテヤニ當ラシムルヲ本則トシ軍事行

動上必要アルモノ外之ニ干渉スルヲ避クルモノトス

四 人民ニ對シテハ成ルハク穩健ノ手段ヲ執リ其信賴ヲ得ルヲ要

ス

獨壇俘虜ハ假令我ニ抵抗セサルモノト雖聯合軍ノ係虜トシ

テ之ヲ取扱ヒ且之ヲ内地ニ後送スルモノトナク便宜ノ地點ニ

收容スルモノトス

五、地方民、救済商業、發展並利源開發ニ關スル帝國官  
民、企圖ニ對シテ、軍事行動上支障ナキ限リ、之ニ便重ヲ與  
スルモノトス

又帝國臣民ニシテ地方ノ安寧秩序ヲ害スル者ハ之ヲ退去  
セシムルニトテ圖ルハシ

六、沿海州各地ニ散在スル軍需材料ハ之ヲ監視シ其散逸  
ヲ防遏スルヲ要ス

七、謀殺ハ直接作戰ニ關スルモノ、外左記事項ニ就テ實施ス  
ヘシ

一、沿海州及黒龍州於テハ利源ニ關スル謀殺

四、列國官民と露國官民との關係  
 八、列國官民、政治的及經濟的施設又ハ計畫實情  
 二、露國官民各派、意嚮及其行動  
 八、測圖、別紙要領ニ基キ實施スルニ  
 九、運輸通信補給及衛生ニ關シ指示スルコト別冊、如シ

大正七年八月五日

參謀總長男爵上原勇作

運輸ニ關スル指示

第一 内地鐵道及門司浦潮間

船船輸送

一 鐵道輸送

1. 鐵道輸送ニ別紙計畫表ニ依リ實施スヘシ之レ

カ爲メ、乗下車停車場ニ所要ノ職員ヲ派遣シ

停車場司令部ノ勤務ヲ掌ラシムルヲ要ス

2. 鐵道輸送計畫表ニ指定セル列車ハ鐵道院ニ

於テ乗車停車場ニ準備ス

鐵道運川輸送券面記載スルモ輸送料金仕拂官  
衙ハ陸軍東京經理部ト指定スル

一 船舶輸送

1. 船舶輸送ハ別紙乗船上陸日次區分表ニ依リ陸軍

運輸部本部長ヲシテ實施セシム

但シ乗船上陸ノ細部ニ關シテハ直接左ニ協議セシム

乗船 陸軍運輸部本部門司出表所

上陸 陸軍運輸部本部門臨時浦潮派出席

2. 船内ニ於テ人員ノ給食席等ハ以補トシヨリ現官給ス



第二 上陸後ノ輸送

一 師團ハ成ル可ク速ニ烏蘇利鐵道當局者ニ連絡シ我  
軍ニ於テ使用シ得ル輸送力ヲ協定シ該範圍内ニ於  
テ輸送ヲ實施スルヲ要ス

二 前項ノ協定ニ方リテハ聯合與國ノ關係ヲ顧慮スルヲ要  
ス

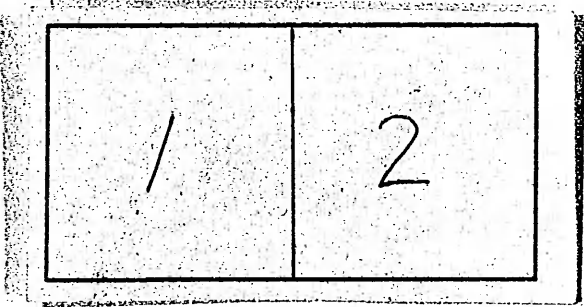

獲得ニ必要ニ應ジ與國ニ向テ請求スル加テ協定スルモノナリ

努力スル

三 本國及ウシテソノ他ノ國ニ於テ鐵道ノ設備ハ

一、前記之組織等、  
 二、前記之組織等、  
 三、前記之組織等、  
 四、前記之組織等、  
 五、前記之組織等、  
 六、前記之組織等、  
 七、前記之組織等、  
 八、前記之組織等、  
 九、前記之組織等、  
 十、前記之組織等、  
 十一、前記之組織等、  
 十二、前記之組織等、  
 十三、前記之組織等、  
 十四、前記之組織等、  
 十五、前記之組織等、  
 十六、前記之組織等、  
 十七、前記之組織等、  
 十八、前記之組織等、  
 十九、前記之組織等、  
 二十、前記之組織等、  
 二十一、前記之組織等、  
 二十二、前記之組織等、  
 二十三、前記之組織等、  
 二十四、前記之組織等、  
 二十五、前記之組織等、  
 二十六、前記之組織等、  
 二十七、前記之組織等、  
 二十八、前記之組織等、  
 二十九、前記之組織等、  
 三十、前記之組織等、  
 三十一、前記之組織等、  
 三十二、前記之組織等、  
 三十三、前記之組織等、  
 三十四、前記之組織等、  
 三十五、前記之組織等、  
 三十六、前記之組織等、  
 三十七、前記之組織等、  
 三十八、前記之組織等、  
 三十九、前記之組織等、  
 四十、前記之組織等、  
 四十一、前記之組織等、  
 四十二、前記之組織等、  
 四十三、前記之組織等、  
 四十四、前記之組織等、  
 四十五、前記之組織等、  
 四十六、前記之組織等、  
 四十七、前記之組織等、  
 四十八、前記之組織等、  
 四十九、前記之組織等、  
 五十、前記之組織等、  
 五十一、前記之組織等、  
 五十二、前記之組織等、  
 五十三、前記之組織等、  
 五十四、前記之組織等、  
 五十五、前記之組織等、  
 五十六、前記之組織等、  
 五十七、前記之組織等、  
 五十八、前記之組織等、  
 五十九、前記之組織等、  
 六十、前記之組織等、  
 六十一、前記之組織等、  
 六十二、前記之組織等、  
 六十三、前記之組織等、  
 六十四、前記之組織等、  
 六十五、前記之組織等、  
 六十六、前記之組織等、  
 六十七、前記之組織等、  
 六十八、前記之組織等、  
 六十九、前記之組織等、  
 七十、前記之組織等、  
 七十一、前記之組織等、  
 七十二、前記之組織等、  
 七十三、前記之組織等、  
 七十四、前記之組織等、  
 七十五、前記之組織等、  
 七十六、前記之組織等、  
 七十七、前記之組織等、  
 七十八、前記之組織等、  
 七十九、前記之組織等、  
 八十、前記之組織等、  
 八十一、前記之組織等、  
 八十二、前記之組織等、  
 八十三、前記之組織等、  
 八十四、前記之組織等、  
 八十五、前記之組織等、  
 八十六、前記之組織等、  
 八十七、前記之組織等、  
 八十八、前記之組織等、  
 八十九、前記之組織等、  
 九十、前記之組織等、  
 九十一、前記之組織等、  
 九十二、前記之組織等、  
 九十三、前記之組織等、  
 九十四、前記之組織等、  
 九十五、前記之組織等、  
 九十六、前記之組織等、  
 九十七、前記之組織等、  
 九十八、前記之組織等、  
 九十九、前記之組織等、  
 一百、前記之組織等、  
 本部臨時浦潮派出所、直接機設、

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>9 年 5 月 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

秘

沿海派遺部隊乘船上陸日次豫定表

陸地 神潮

部隊	號	人員	馬匹	總噸數	乘船日次	上陸日次	備考
陸軍運輸部本部浦潮派出所	六	八四	一	二七九	第五日	第八日	
第十二師團設營隊	二〇	一四〇		四八〇	乃至	乃至	
第十二師團司令部	師團長及幕僚其他若干				第七日	第十日	
步兵第三五旅團司令部	三	一三	八	一三〇	乃至	乃至	
步兵第十四聯隊	八五	三六三	二六〇	一三四九四	第七日	第十日	
計	二四	六六九	二六九	一四三三三			

第十二師團第六陸上輸送隊	一	三三〇	一	九七二	乃至	乃至	
第十二師團第七陸上輸送隊	六	一五九	一五〇	一五六五	第十日	第十四日	陸上輸送隊八 第九日 乘船ス
計	九二	四八二	四二一	一六四三三			
第十二師團電話隊	三	一一六	二二	五五五	第十日	第十四日	
野戰電信第十八中隊	七	三三五	七八	一七二八	第十日	第十四日	
第十師團第七陸上輸送隊	一	三三〇	一	九七二	第十日	第十四日	
第一鐵道隊	一五	二六三	一二	九三九	第十日	第十四日	
江兵第十二大隊	一四	五一九	六五	二一八四	第十日	第十四日	
野砲兵第十二聯隊(砲)	一六	三四九	二九四	三七三五	第十日	第十四日	
計	五六	一九九二	四七二	一〇、一三三			

第十二師團第八陸上輸送隊	一	三三〇	一	九七二	第十日	第十四日	
野砲兵第十二聯隊本部	三	二四	一六	二二五	第十日	第十四日	
野砲兵第十二聯隊第三中隊	五	一三四	一一五	一四四九	第十日	第十四日	
同 戰隊隊列	六	二八四	二五九	三、二〇一	第十日	第十四日	
第十二師團司令部	六四	四一四	二九一	四、〇五三	第十日	第十四日	
獨立野戰重砲九大隊	一五	五九〇	四九〇	六、三三五	第十日	第十四日	
第十二師團衛生隊(和赤隊)	二二	四九八	九三	三、四〇〇	第十日	第十四日	
第十二師團野戰病院	一三	二一〇	六七	一、二七二	第十日	第十四日	
計	一三八	一、四七四	一、三三二	一、九七九七			

騎兵第十二聯隊(中隊)	一九	三五一	三三八	四、〇三三	第十日	第十四日	
野砲兵第十二聯隊第三大隊	二一	四八三	四〇九	五、一九三	第十日	第十四日	
第十二師團野戰病院	四	二八	四〇	一、〇九六	第十日	第十四日	
計	四四	一、〇四二	七八七	一、〇三三			

第一無線電信隊	六	一四三	八四	一、二〇三	第十日	第十四日	
第一航空隊	一〇	一六九	五七	一、〇五〇	第十日	第十四日	
第一臨時測圖部	二一	九二	二	三五七	第十日	第十四日	
第一薪炭採集部	六	一一		五一	第十日	第十四日	
計	四三	四一五	一四三	二、六六一			

第一乘船、上陸日次ハ動員日次ヲ以テ示ス							
指定乘船、上陸日次ハ船舶ノ集合景況ニ依リ多少變更スルコトアリ							

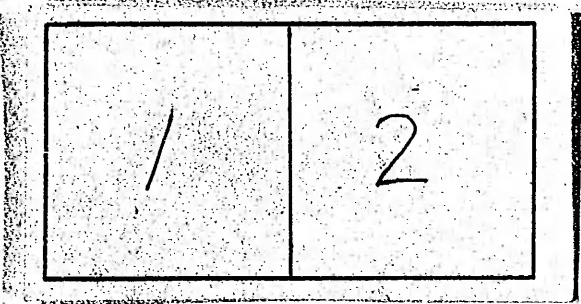

沿海派遣部隊乗船上陸日次豫定表

陸地浦潮

部隊	人員	馬匹	總噸數	乘船日次	上陸日次	備考
陸軍運輸部本部浦潮派出所	六	八四	一	二七九		
第三師團設營隊	二〇	一四〇	四八〇		第五日 第八日	
第十二師團司令部	師團長及幕僚其他若干				乃至 乃至	
步兵第三五旅團司令部	三	一三	八	一一〇	第七日 第十日	
步兵第十四聯隊	八五	三六三	二六〇	一三四九四		
計	二四	三八九	二六九	一四三三三		
第十一師團第六陸上輸車隊	一	三三〇	一	九七二	乃至 乃至	陸上輸車隊八 第九日乗出 テ乗船ス
騎兵第十二聯隊第一中隊	六	一五九	一五〇	一九六五	第十日 第十四日	
計	九二	四二二	四一一	一六四三二		
第十二師團電話隊	三	一一六	二二	五五五	第十二日 第十四日	
野戰電信第十八中隊	七	三三五	七八	一七二八		
第十一師團第七陸上輸車隊	一	三三〇	一	九七二		
第一鐵道隊	一五	二六二	一一	九三九		
江兵第十二大隊	一四	五二九	六五	二一八四	第十三日 第十五日	第十一師團第七 陸上輸車隊八 第十四日乗出 テ乗船ス
野砲兵第十三聯隊第一中隊	一六	三四九	一九四	三三三五		
計	五六	一九二	四七二	一〇一〇三		
第十一師團第八陸上輸車隊	一	三三〇	一	九七二		
野砲兵第十三聯隊本部	三	二四	一六	二二五	第十三日 第十五日	
野砲兵第十三聯隊第三中隊	五	一三四	一一五	一四四九		
同 戰隊隊列	六	二八四	二五九	三二〇一		
第十一師團司令部	六四	四一四	二九一	四〇五三	乃至 乃至	第十一師團司令部人員馬數 ニ先登者ヲ 控除ス
獨立野戰重砲兵大隊	一五	五九〇	四九〇	六三三五		
第十三師團衛生隊(和氣隊)	二二	四九八	九三	三〇〇〇	第十六日 第二十日	
第十三師團野戰病院一	一三	二一〇	六七	一三二二		
計	三八	二四四	一三三三	一九七九七		
騎兵第十三聯隊(中隊)	一九	三五二	三三八	四〇三三	第十七日 第二十日	
野砲兵第十三聯隊第二大隊	二一	四八三	四〇九	五二九二	乃至 乃至	
第十一師團司令部輜重監視隊	四	二八	四〇	一〇九六		
計	四四	一四二	七八七	一〇三三一		
第一無線電信隊	六	一四三	八四	一三〇三		
第一航空隊	一〇	一六九	五七	一〇五〇		
第一臨時測圖部	二一	一九二	二	三五七	第十五日 第十九日	
第一薪炭採集部	六	一一		五一		
計	四三	四一五	一四三	二六六一		

備考  
 一、乗船上陸日次ハ動員日次ヲ以テ示ス  
 二、指定乗船、上陸日次ハ船舶ノ集合景況ニ依リ多少變更スルコトアリ

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>9 年 5 月 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

自發案

鐵道輸送計畫表

輸送區分		輸送計畫番號		1		2		3		4		5			
出兵 輸送		輸送部隊若ク		隊(三中隊+機關銃隊) 歩兵第三十四旅隊第一大 隊(三中隊+機關銃隊) 步兵第三十五旅團司令部		全 第二大隊(一中隊 機關銃隊)		全 聯隊本部		全 第二大隊(機關銃隊) 三中隊		全 第三大隊(三中隊)			
輸送件名		人員		3 15		19		5 15		9 5 10		19			
第十二師團 第一梯團		將校(准士官 以上)		13 587		836		28 587		330 83 506		664			
		下士以下		8 58		20		19 58		20 7		78			
		馬匹		2 21		4		5 21		4 62		21 4			
輸送請求官衙、部隊		車(駄)數		2 0(25)		(13)		5(6) 20(25)		(13)		20(33)			
計畫表配布箇所 部數		荷物噸數													
		容積才數													
		一、二等客車		1		1		1		1		1			
		三等客車		15		21		15		23		16			
		客車代用有蓋貨車													
		荷積有蓋貨車		10		3		12		4		12			
馬積有蓋貨車		3		1		3		2		4					
無蓋貨車		2		1		2		1		2					
緩急車		31		27		33		31		35					
合計		76		80		20		76		80					
輸送列車番(記)號															
搭載シ得ル <sup>噸</sup> /日		午前/8													
出 發		停車場		博 多											
到 著		停車場		門 司											
時刻		時分/日		7 <sup>00</sup> /8		11 <sup>40</sup> /8		4 <sup>40</sup> /8		7 <sup>00</sup> /8		11 <sup>40</sup> /8			
時刻		時分/日		1 <sup>03</sup> /8		6 <sup>14</sup> /8		9 <sup>43</sup> /8		1 <sup>03</sup> /9		6 <sup>14</sup> /9			
備考		備													
備考		考													
參謀本部第三部		10													
計		27 部													

大正七年八月二日 參謀本部調製

注 一 材料欄にハ幅重車、キハ機關銃、ソハ銃撃砲ヲ示ス 二分ヲ示ス數字ノ下方ニ橫線ヲ附シタルモノハ午後ノ時刻ヲ示ス

0089

注 意

一 材料欄「ハ」ハ輜重車、「キ」ハ機関銃、「ソ」ハ銃撃砲ヲ示ス  
分ヲ示ス数字ノ下方ニ横線ヲ附シタルモノハ午後ノ時刻ヲ示ス

輸送計畫番號		1	2	3	4	5																
輸送部隊若ク		歩兵第三旅団司令部 隊(三中隊)機関銃隊(大) 歩兵第三十四隊隊第一大	全 隊 第一大隊 第二中隊	全 隊 聯隊本部	全 隊 第二大隊 (二中隊)	全 隊 第二大隊 二中隊	全 隊 第三大隊 二中隊															
輸送數量	人員	將校(准士官) 下士以下	3 15	19	5 15	9 5	10 506	19														
	馬	匹	8	18	20	19	58	20	7	78												
	材	料	2 21	4	5 21	4	6	21 4														
	荷ハ物軍若ク品	車(駄)數 重量噸數 容積才數	2 0(25)	(13)	5(6)	20(25)	(13)		20(38)													
所 要 車 輛	一、二等客車		1	1	1	1	1	1														
	三等客車		15	21	15	23	16															
	客車代用蓋貨車																					
	荷積有蓋貨車																					
	馬積有蓋貨車		10	3	12	4	12															
	無蓋貨車		3	1	3	2	4															
	緩急車		2	1	2	1	2															
合計		31	27	33	31	35																
輸送列車番(記)號			76	80	20	76	80															
搭載シ得ル <sup>噸</sup> /日			午前/8																			
出 發	停車場		博 多																			
	時分/日		7 <sup>00</sup> /8	11 <sup>40</sup> /8	4 <sup>40</sup> /8	7 <sup>00</sup> /8	11 <sup>40</sup> /8															
到 著	停車場		門 司																			
	時分/日		1 <sup>03</sup> /8	6 <sup>44</sup> /8	9 <sup>43</sup> /8	1 <sup>03</sup> /8	6 <sup>44</sup> /8															
備考																						

輸送區分

出兵 輸送

輸送件名

第十二師團  
第一梯團

輸送請求官衙、部隊

計畫表配布箇所 部數

第十二師團司令部	10
陸軍運輸部本部	2
銃道院	5

參謀本部第三部 10

計 27 部





通信ニ関スル指示

第十二師團作戰地域内竝之ト外部トノ通信連絡ハ概ネ

左ノ要領ニ據ルモノトス

其一 電信

一 第十二師團作戰地域ト内地トノ連絡

浦潮—京城線ヲ經由スルモノヲ主通信線トシ在浦潮

露國固定無線局ノ利用ニヨリ舞鶴海軍無線局ヲ

經由スルモノ(但シ我軍艦無線局浦潮ニ存在スル間之ニ依ル)及浦潮—長崎間大

北會社ノ海底線ヲ併用スルカ爲左ノ處置ヲ採

ルモノトス

- (イ) 主通信線運用ノ爲ニ通信吏員拾名ヲ師團司令部ニ配屬シ必要ナル通信機ヲ携行セシム故ニ可成速ニ浦潮露國電信局ニ此通信手ヲ入レ浦潮一京城線ヲ運用スルコトヲ努ムヘシ
- (ロ) 無線電信隊浦潮ニ上陸セハ先ツ該地固定無線局ニ我通信手ヲ入レ舞鶴無線局ト連絡スルコトヲ努ムヘシ本連絡ニ関シ海軍省トノ協定ハ陸軍省ニ於テス

一 浦潮—哈爾濱間ノ連絡

無線通信ノ實施ニ関シテハ在浦潮海軍當事者ト豫メ協定ヲ要ス此協定ハ師團ノ擔任トス

(ハ) 在浦潮大北會社所屬ノ電信局ハ軍ニ之ヲ監視スルニ止メ平常ノ如ク運用セシム而シテ之カ利用ニ関シテハ關係各國軍ト協定スヘシ

先ツ浦潮固定無線局ノ利用ニヨリ哈爾濱無線局トノ連絡ヲ取り爾後機ヲ見テ陸線利用ノ方法ヲ謀ル之ヲ通信線トスル如ク好ムヘシ

三 作戰地域内ニ於ケル連絡

作戰地域内ニ於ケル通信ハ主トシテ在來通信網ノ  
 利用ニ依ルモノトス但シ之ガ利用ニ関シテハ要スレバ  
 關係各國軍ニ協定スベシ

其二 郵便

作戰地域内ニ於ケル郵便機關トモテ郵便長以下野戦  
 郵便局三同繼立所ニ應スル人員器材ヲ配屬ス

補給及衛生ニ関スル指示

浦潮派遣軍司令部及第十二師團長隷下部隊浦潮派

遣司令部補給陸軍運輸部本部臨時浦潮派出所ニ

對スル補給ハ第十二師團長之ヲ擔任スヘシ

補給用糧食及其他軍需品成ルニ現地物資ヲ據ルハ其之

ニ據ルニ能ハスルハ浦潮ニ追送スル第十二師團司令部ニ

交付スル然レモ政策上必要ナル場合或ハ廣額資金ヲ關

係ニ依リ追送スルニ有利ナル場合ハ概宜ク便宜ノ取リ

下亦緊要ナル場合現地物資ヲ調程シ得ルハ物資ヲ運送スル

一、先、報告

三、補給物資管理第十二師團司令部一部に於ては、其集積、本領、滿洲、支領、其他、要地、置て軍需輸送、主として鐵道、由らる。

四、輜重兵大隊、縱列、引當、彈藥、中歩兵、彈藥、一縱列、分、砲兵、彈藥、三縱列、分、特、第一梯團、共ニ之、携行ス。

五、軍需集積、爲、要、建築物、努、在、來、モ、利用、其他、雨覆、ヲ、以、て、代用ス。

六、患者收容、爲、要、地方病院、設備、ヲ、利用ス。

七、患者内地後送ハ八月下旬以後概テ毎月二回滿潮ヲ發航

スル患者輸送船ニ依ルモノトス

八、作戰初期追送軍需品、輸送區分ハ別紙第一第二、如

三

初期追送軍需品輸送區分表其一

品名	種	揚陸地	揚陸期日	積		専用	
				數量	噸數	數量	噸數
糧秣 (船内非常準備用)			向動員 至全 第廿二日	四二〇	一〇、五〇		
				自全 第廿八日	三二〇	一、二五	
及 薪炭 (半量)			自全 第廿四日	五八〇	二〇、二五		
				自全 第廿五日			四〇〇
千草及薪炭 (定量)			自全 第廿三日			九、二〇	三、二二〇
				自全 第廿八日			一、二二五
糧秣 (追送定量)						四五、〇〇	六、〇〇〇

備考

一、本表數量ハ師團單位(人ニリッ〇馬五〇〇)以上ノ示ス  
 二、糧秣(船内非常準備用)除ク中其六分ノ一ハ携帶口糧其他ハ尋常糧秣ニシテ重患者食(師團  
 三、分五〇人ノ對シ)及加給品(時期)ヲ含ム  
 三、糧秣(追送定量)中尋常糧秣ノ品種配合左ノ如シ  
 精米 精麥 漬物 醬油 工入 全量  
 肉類 野菜類 大豆 半量  
 調味品 二分、量  
 食塩 四分、量  
 四、薪炭ノ定量ハ一人一日薪二百五十斤及炭百五十斤トス  
 五、日々ノ揚陸量ハ揚陸期日内ニ於テ平均量トス  
 六、剩餘ヲ生じシ船内非常準備用糧秣其他ノ糧秣薪炭ハ浦潮ノ揚陸ニ第廿二師團長ニ交付ス



別紙第二

初期追送軍需品輸送區分表其二

品目	数量	場所	
		陸地	浦
野戦砲兵廠屬兵器	第一師團一應入ル	場陸隊定期日 動員第三十五日 至同第十五日	六十
天幕	方錐形 一三〇個 屋形 二〇〇個	動員第一十日	五九
雨覆	大小 三八〇個	動員第一十日	八八
穿井機	手掘式 三〇個 上總掘式 三〇個	動員第一十日	五七
大工道具	二七	動員第一十日	二〇
空樽	二二	動員第一十日	三〇
草刈鋸(砥石共)	五五	動員第一十日	一〇〇
麻繩	五〇	動員第一十日	一〇〇
敷物用琉球表	一五〇	動員第一十日	一〇〇
炊具	四五	動員第一十日	五六
瀝水器	六九	動員第一十日	五六
沸水罐	二八	動員第一十日	五六
採薪器	一	動員第一十日	五六
野戰兵器補充器材	半師團分 野戰電信中隊分	動員第一十日	二四
電話材料	架線材料 六二科分 電線材料 五〇科分 電話交換機 五〇科分	動員第一十日	三〇
衛生材料	平病者用 二千人ノ一月分 戰傷者用 一會戰分 病源検査具 一組 理化検査器具 一組 毒瓦斯検査器具 一具	動員第一十日	四七
獸醫材料	三十五百頭ノ對スル各一月分	動員第一十日	一五
尋常及水上踏鐵	夏袴下各人一着宛 冬期時服定数、着裝被服下着類 防凍外套毡毛布(各人一枚宛)	動員第一十日	三三
破服	冬期時服定数、着裝被服下着類 防凍外套毡毛布(各人一枚宛)	動員第一十日	一三
消耗品	航空隊用 二ヶ月分 自働車用 二ヶ月分	動員第一十日	六〇

一 輜重兵大隊縦列引當テ、彈藥中歩兵彈藥一縱列分、砲兵彈藥三縱列分ハ第一師團ト共ニ携行スルモノトス之カ高ノ該彈藥ハ動員第七日第十二師團司令部ヨリ門司運輸部本部出張所ニ交付スルモノトス

二 村スルモノトス司令部ヨリ迫撃砲彈藥ハ動員第十九日輸送スルカ高ノ留守第十二師團司令部ヨリ門司運輸部本部出張所ニ交付スルモノトス

三 本表穿井機ハ動員第八日陸隊ハ動員第十五日門司於テ同地運輸部本部出張所ニ交付スルモノトス

四 本表軍需ハ浦朔揚陸後第十二師團司令部ニ交付スルモノトス

# 別紙

## 測圖要領

一 測圖區域ハ別紙第一ノ如シ

二 測量ハ略測圖ニ據リ主トシテ十萬分一ノ概

尺ヲ用ユ

三 原圖ノ完成ニ伴ヒ逐次其師團ノ爲ノ所

要ノ地圖ヲ印刷シタル後該原圖ヲ接續

一覽圖ト共ニ成ルヘク速ニ參謀本部ニ送附

スルヲ要ス

諸報告ハ左ノ如ク進達スルヲ要ス

測圖細部計畫(二通)


臨時測圖部ノ作業根據地到着後原

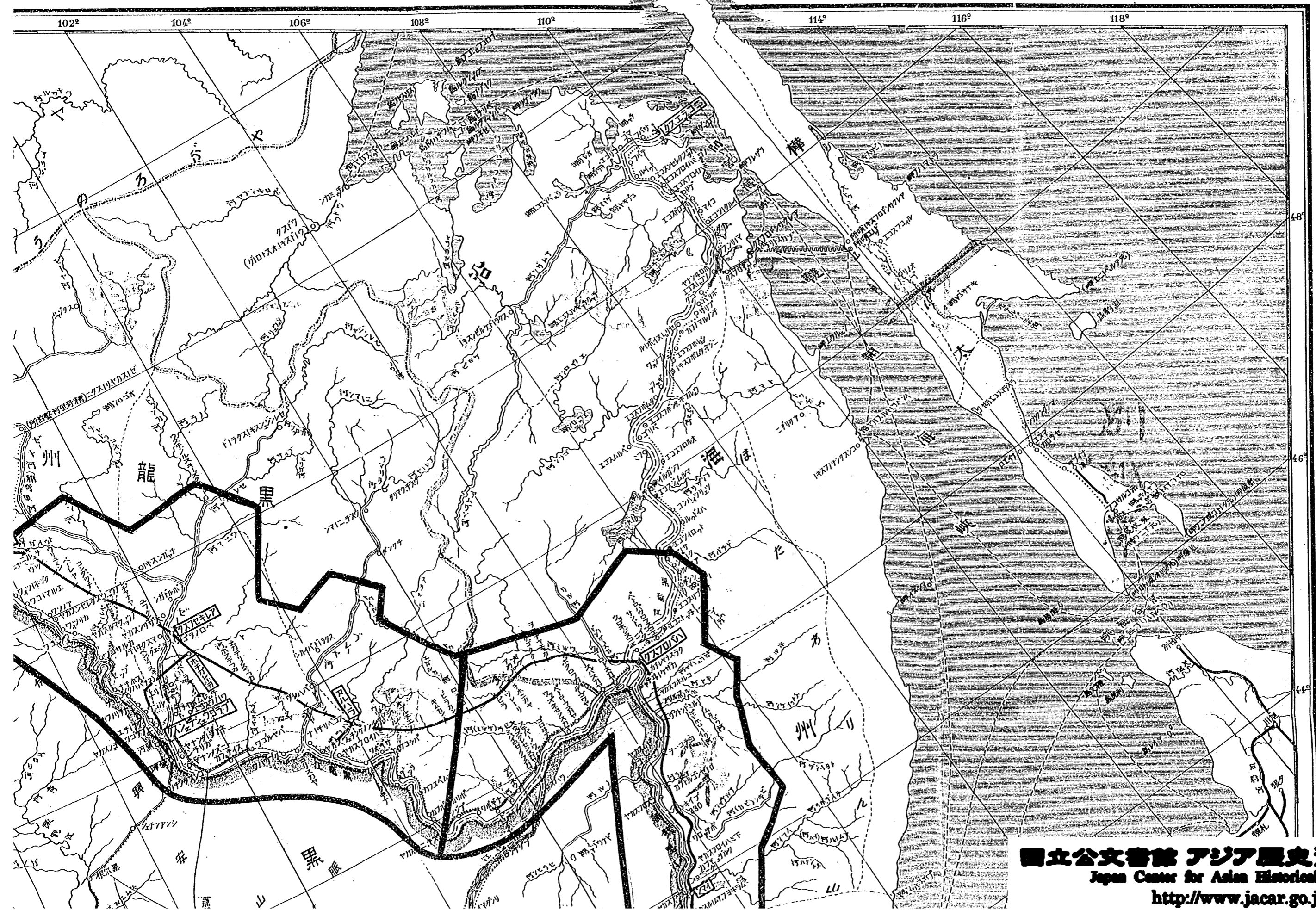
ルハク速

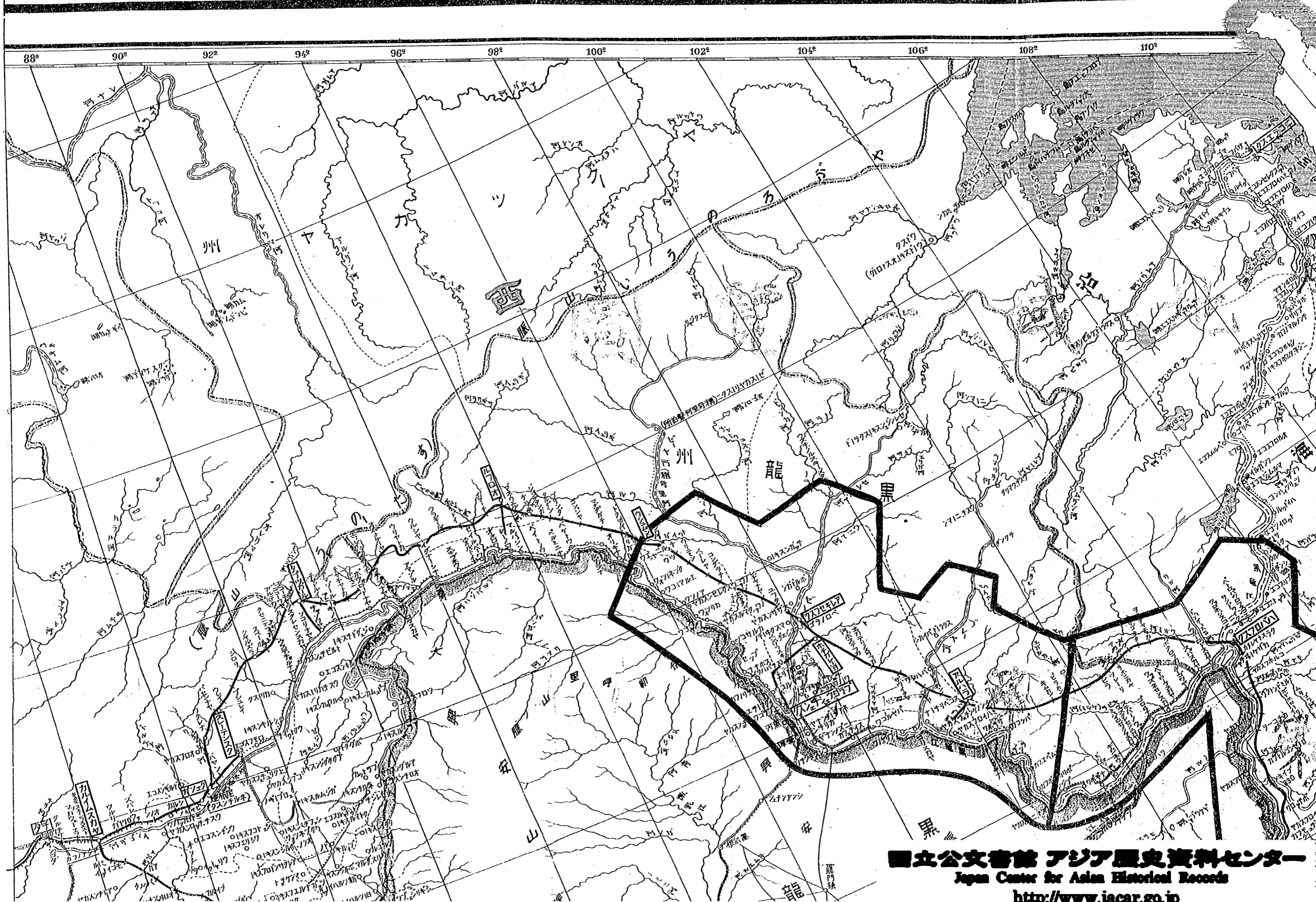
測圖實施報告(三通)

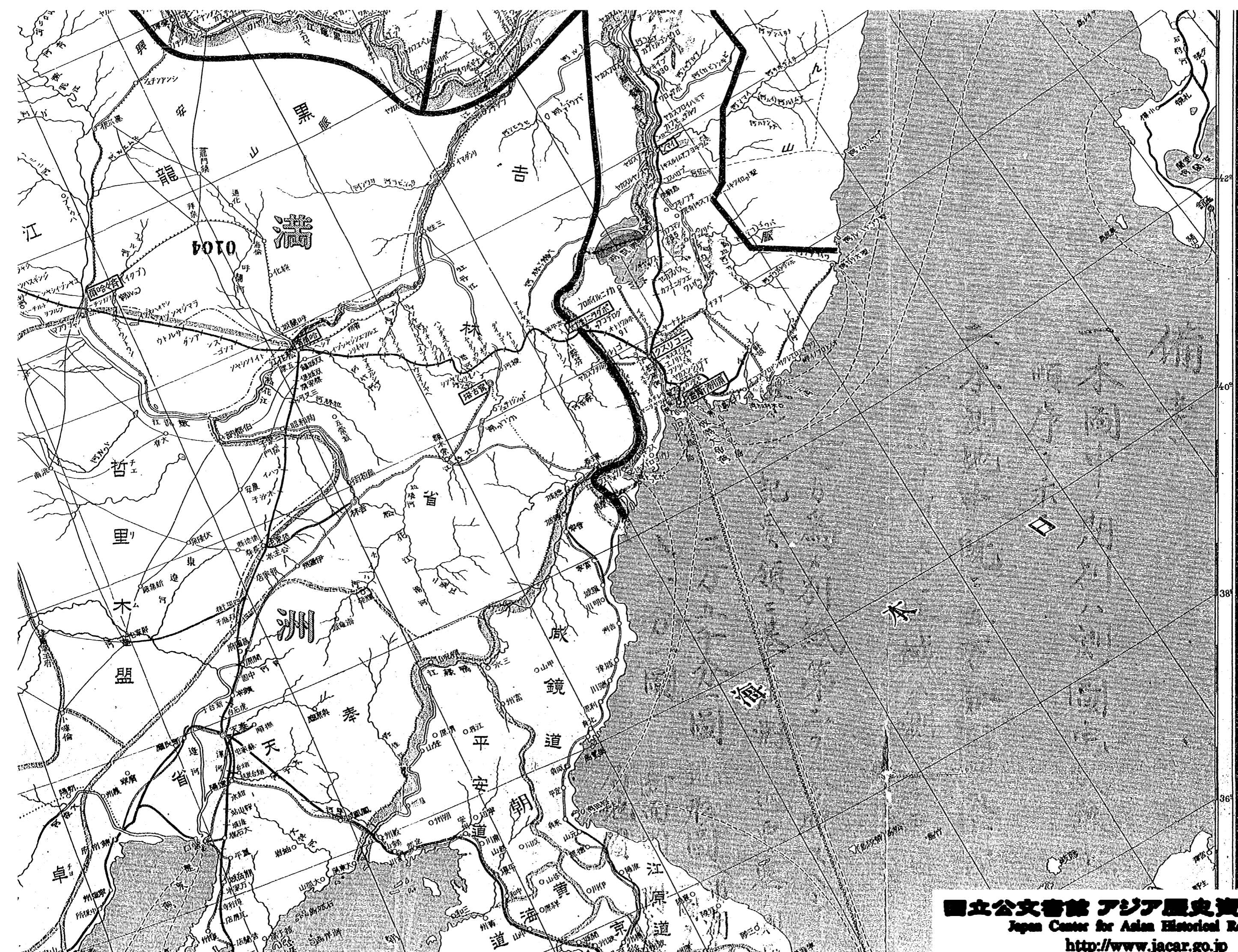
毎月下旬參謀本部ニ到着スル如ク

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1" data-bbox="459 434 970 815"><tr><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td></tr></table>	5	6	3	4	1	2
5	6						
3	4						
1	2						
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため						
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>9 年 5 月 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>							



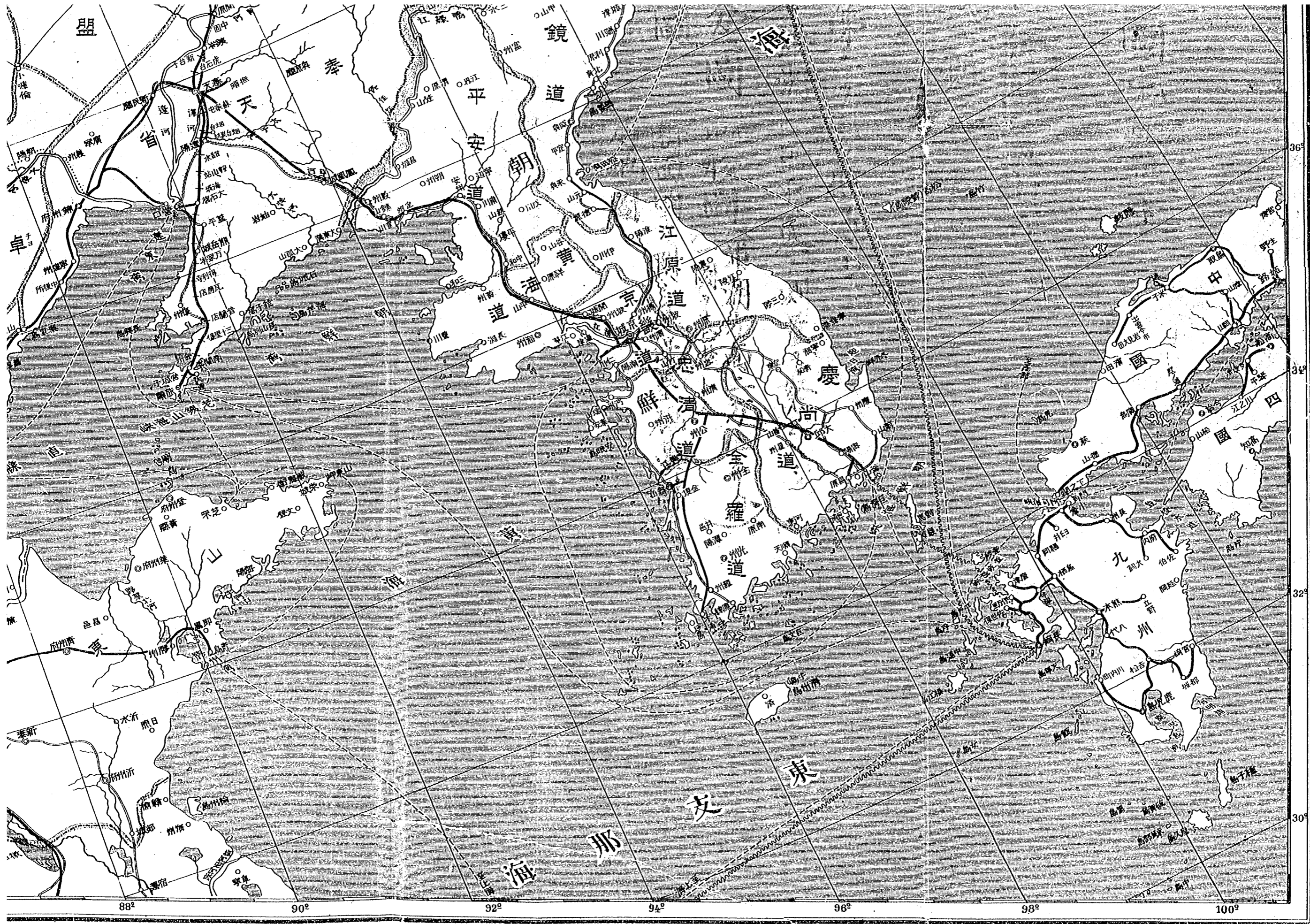


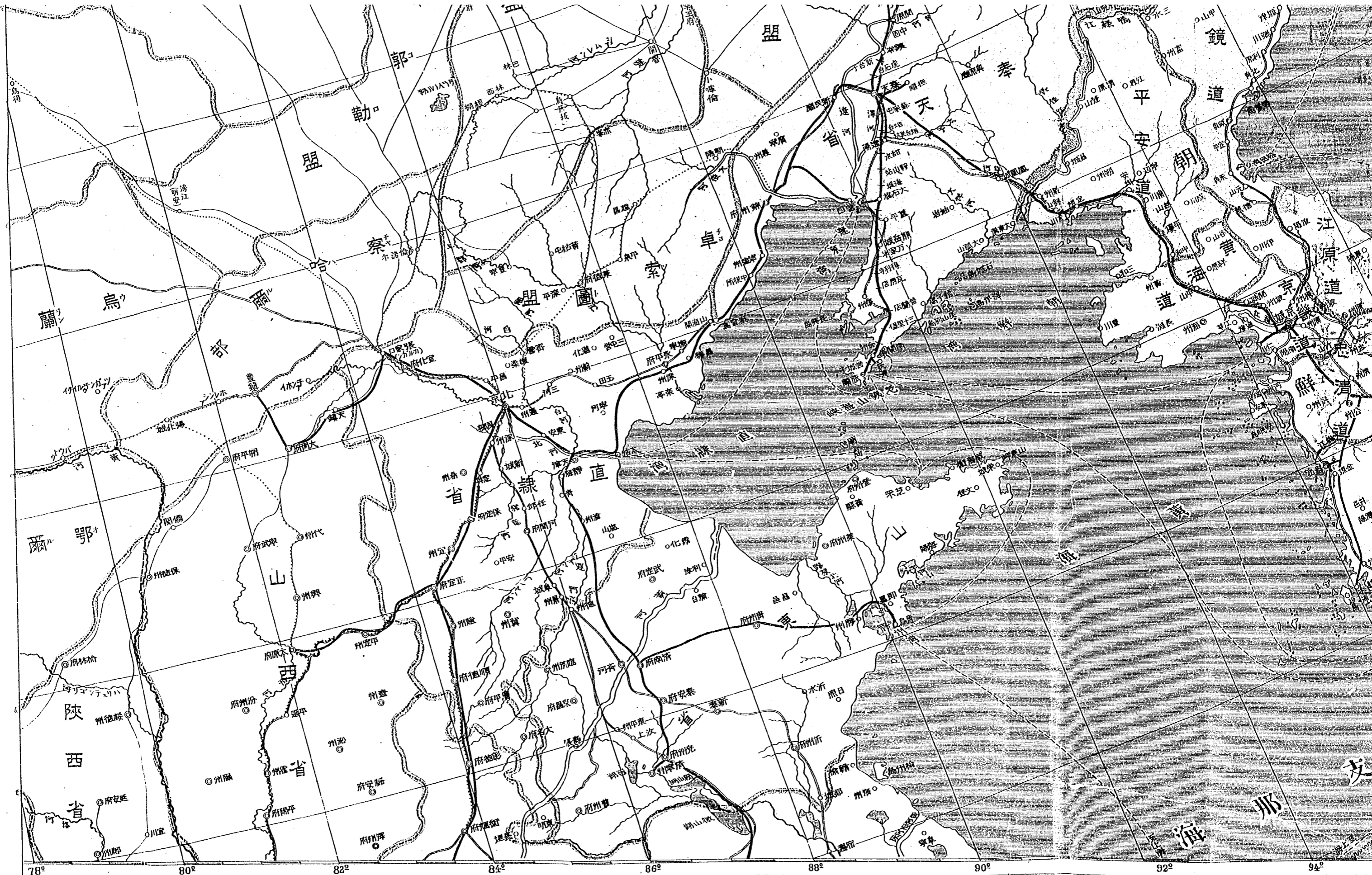


50105










78° 80° 82° 84° 86° 88° 90° 92° 94°

8010

別紙第一

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1" data-bbox="395 456 1015 792"><tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr></table>	4	5	6	1	2	3
4	5	6					
1	2	3					
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため						
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>9 年 5 月 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>							

# 烏蘇里方面及

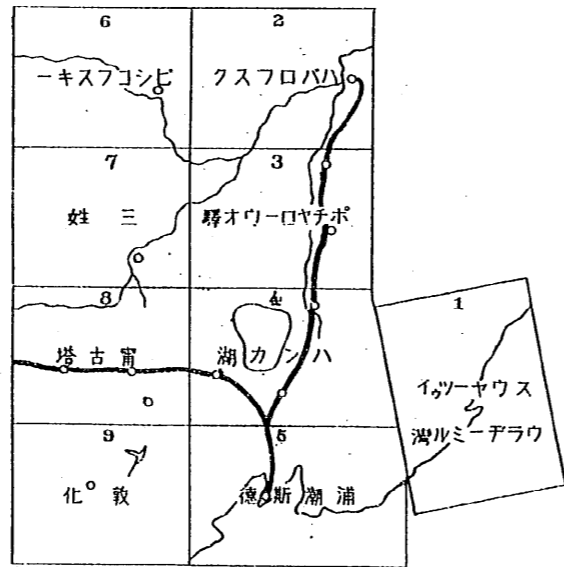
## 烏蘇里方面

(版 露)

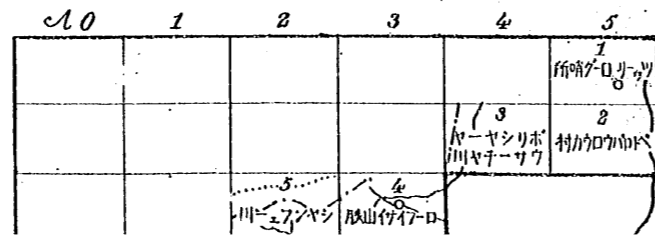
### 滿洲十萬分一圖

● 印ハ關東都督府測圖ノ略圖ニシテ其周圍ノ各圖トハ  
 地形正確ニ接合セス  
 斜線ヲ施セル内部ノ圖ハ正式製版ノモノヲ示ス  
 印ハ圖名ノ位置ヲ示ス

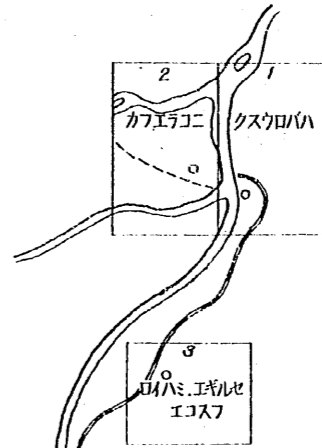
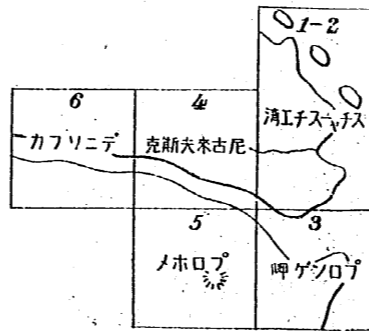
烏蘇里方面 圖一分万十五



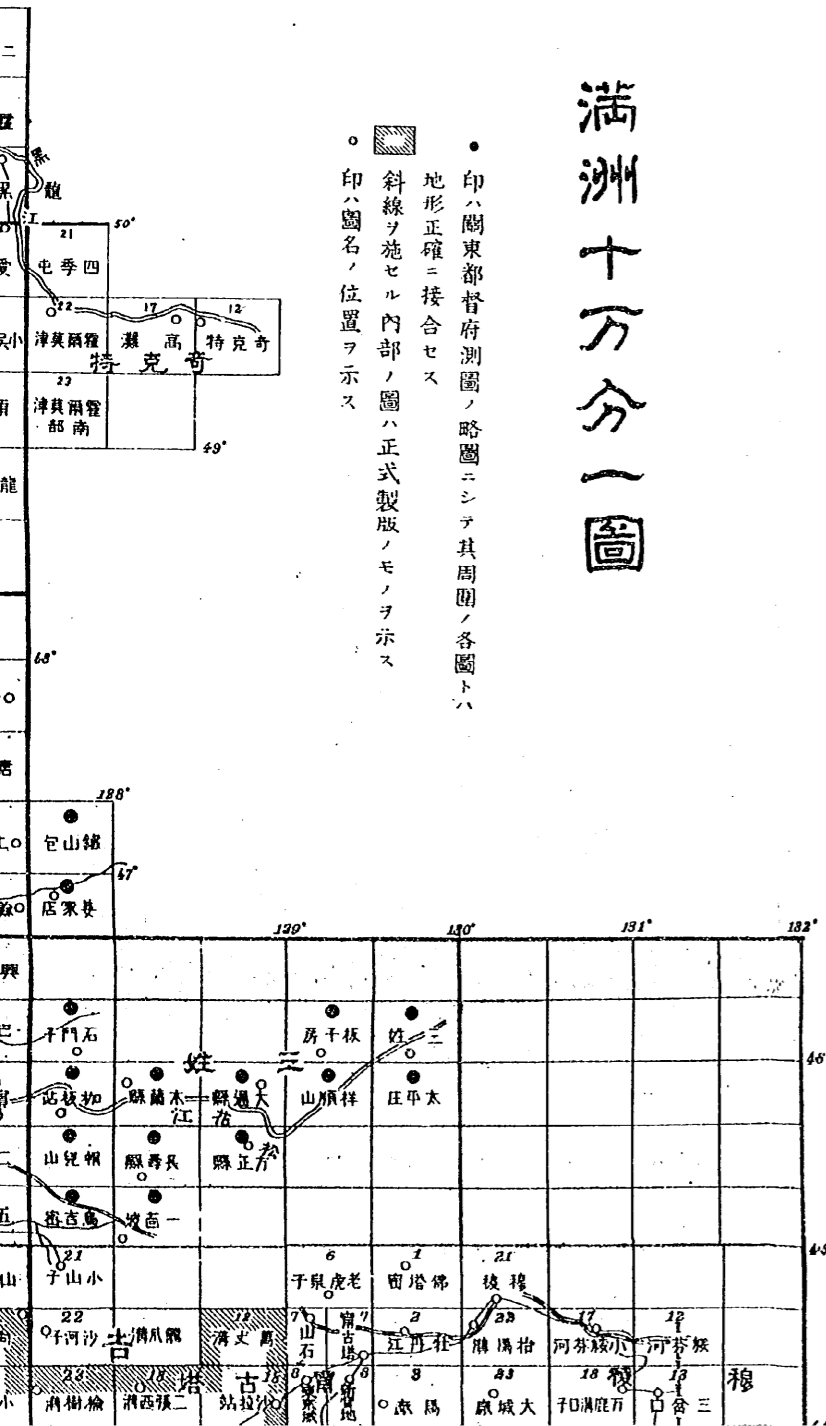
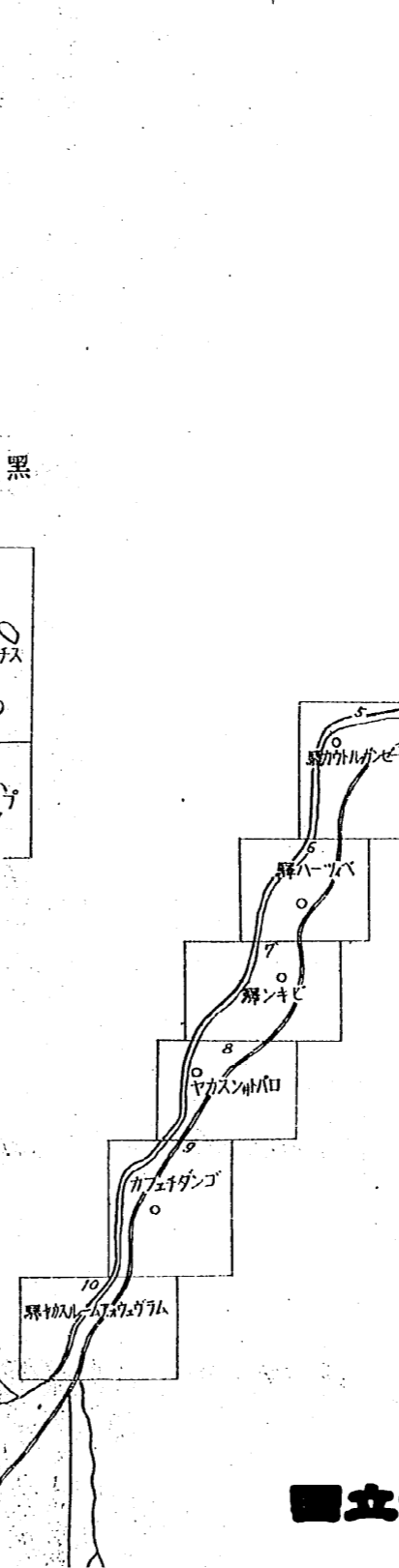
烏蘇里方面 圖一分万五



黑龍江口十分一分一圖



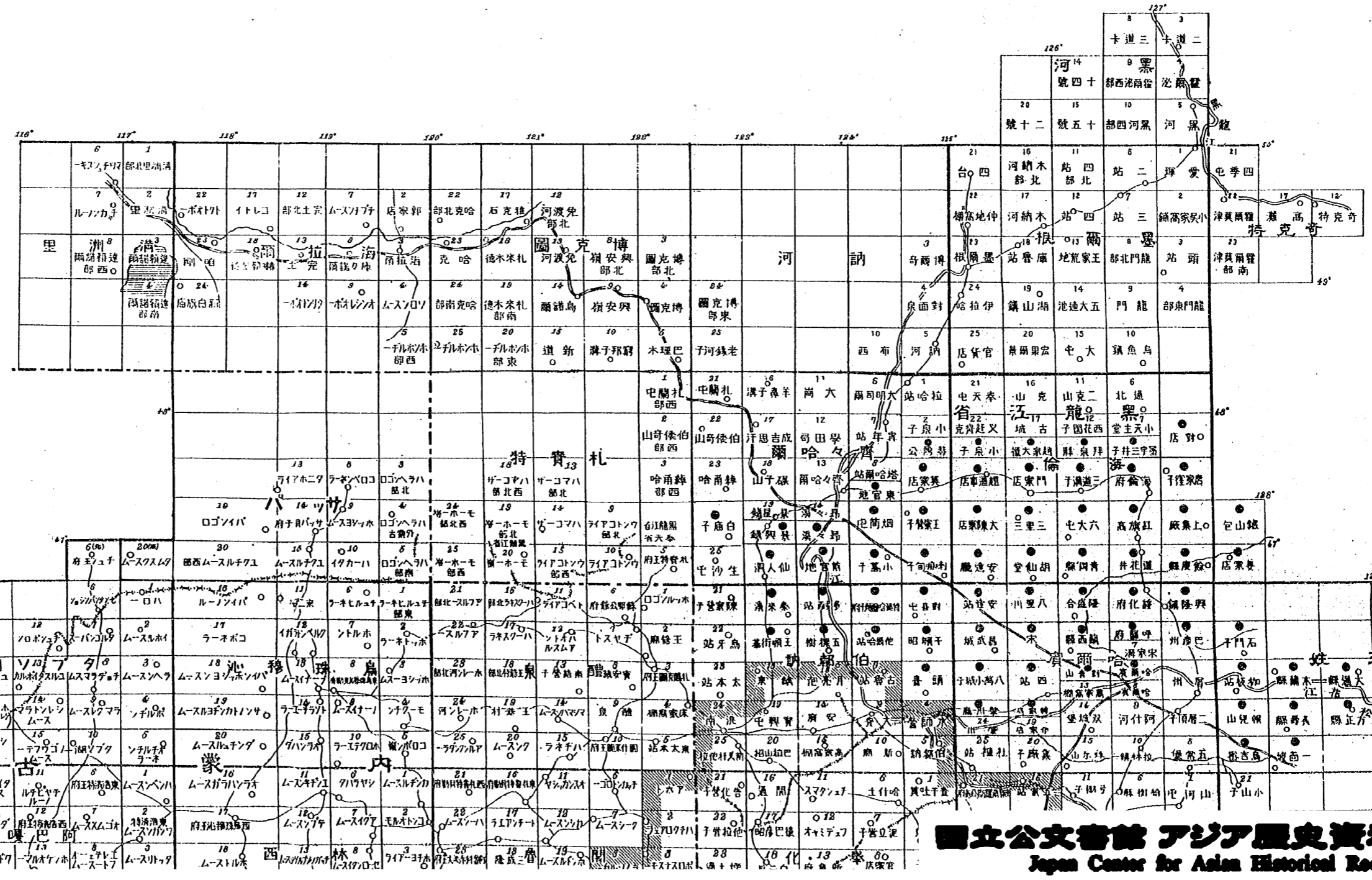
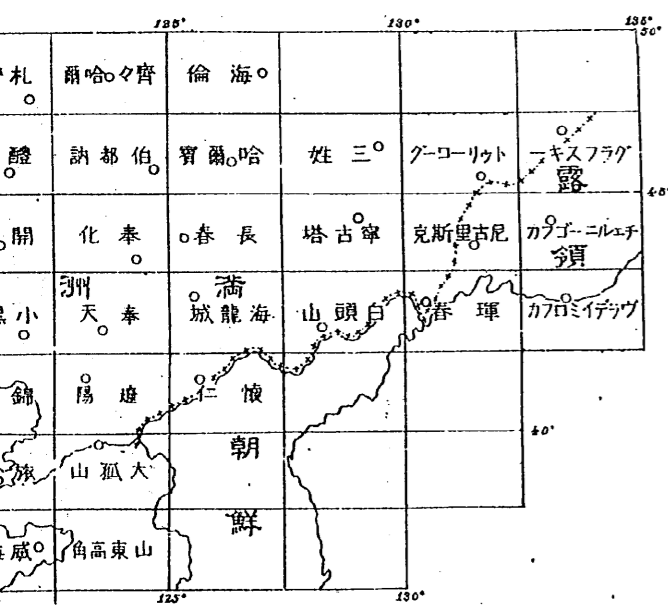
烏蘇里方面 十萬分一圖



臨時

# 圖覽一圖部北那支及面方

圖一分万十五亞東

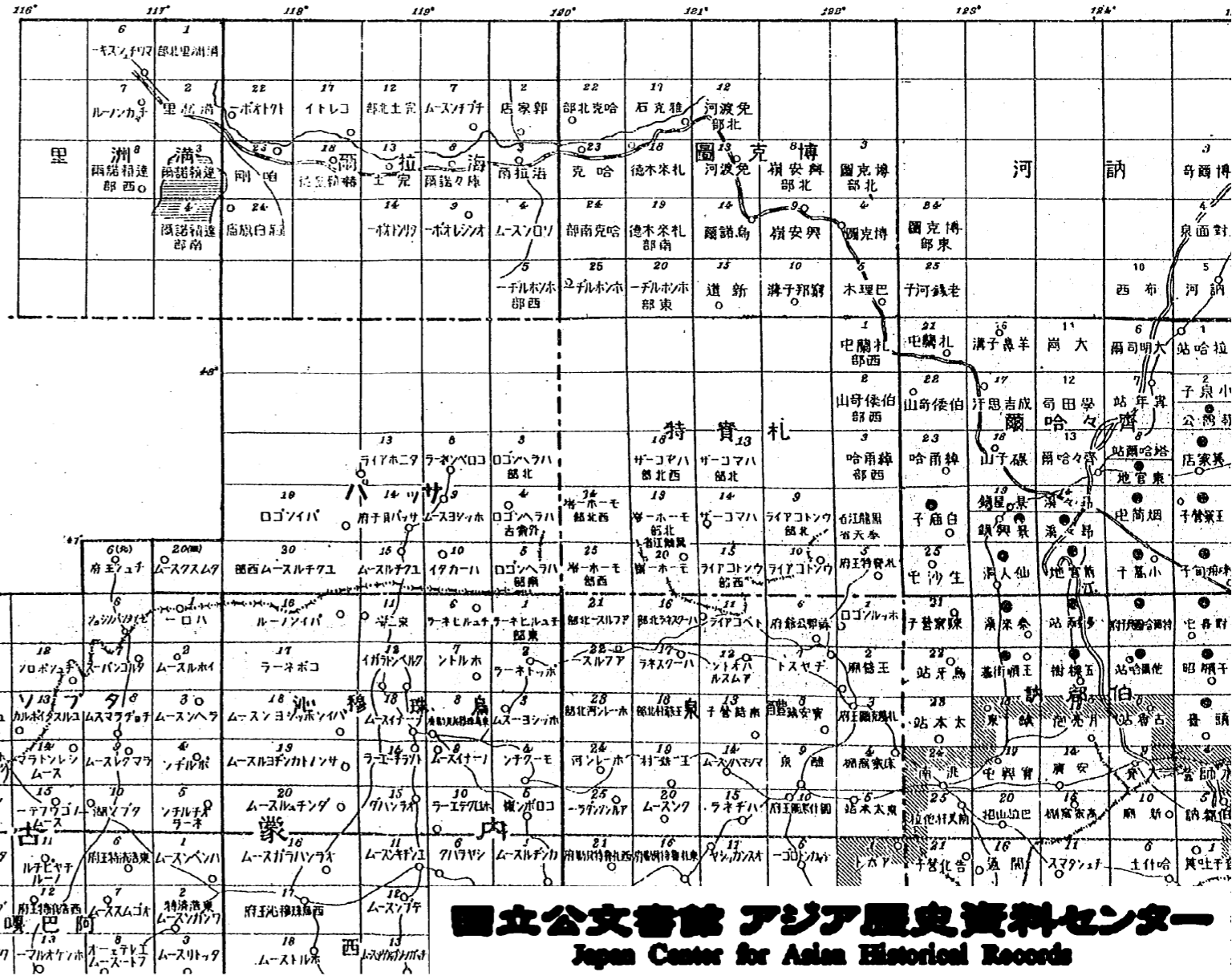
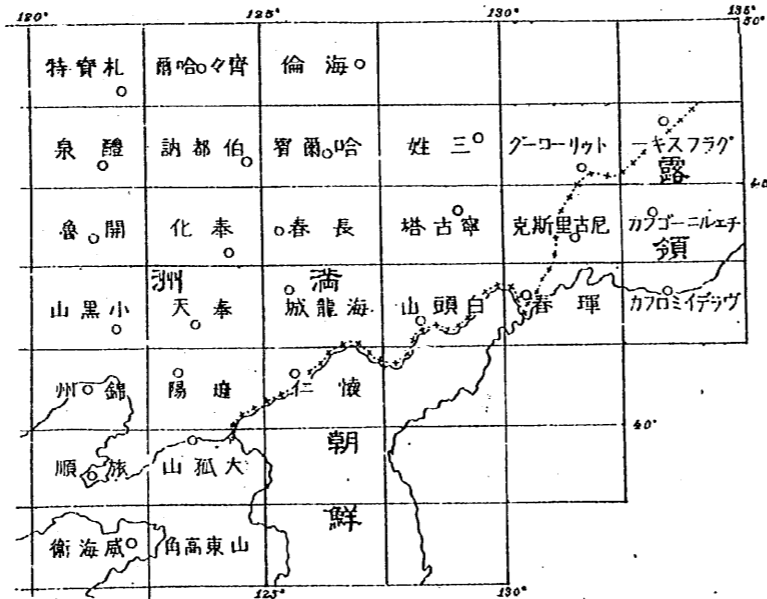


印ハ關東都督府測圖ノ略圖ニシテ其周圍ノ各圖トハ  
 地形正確ニ接合セス  
 斜線ヲ施セル内部ノ圖ハ正式製版ノモノヲ示ス  
 印ハ圖名ノ位置ヲ示ス

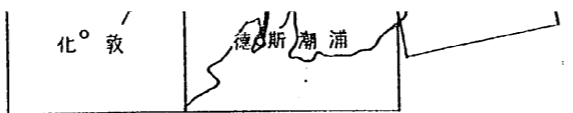
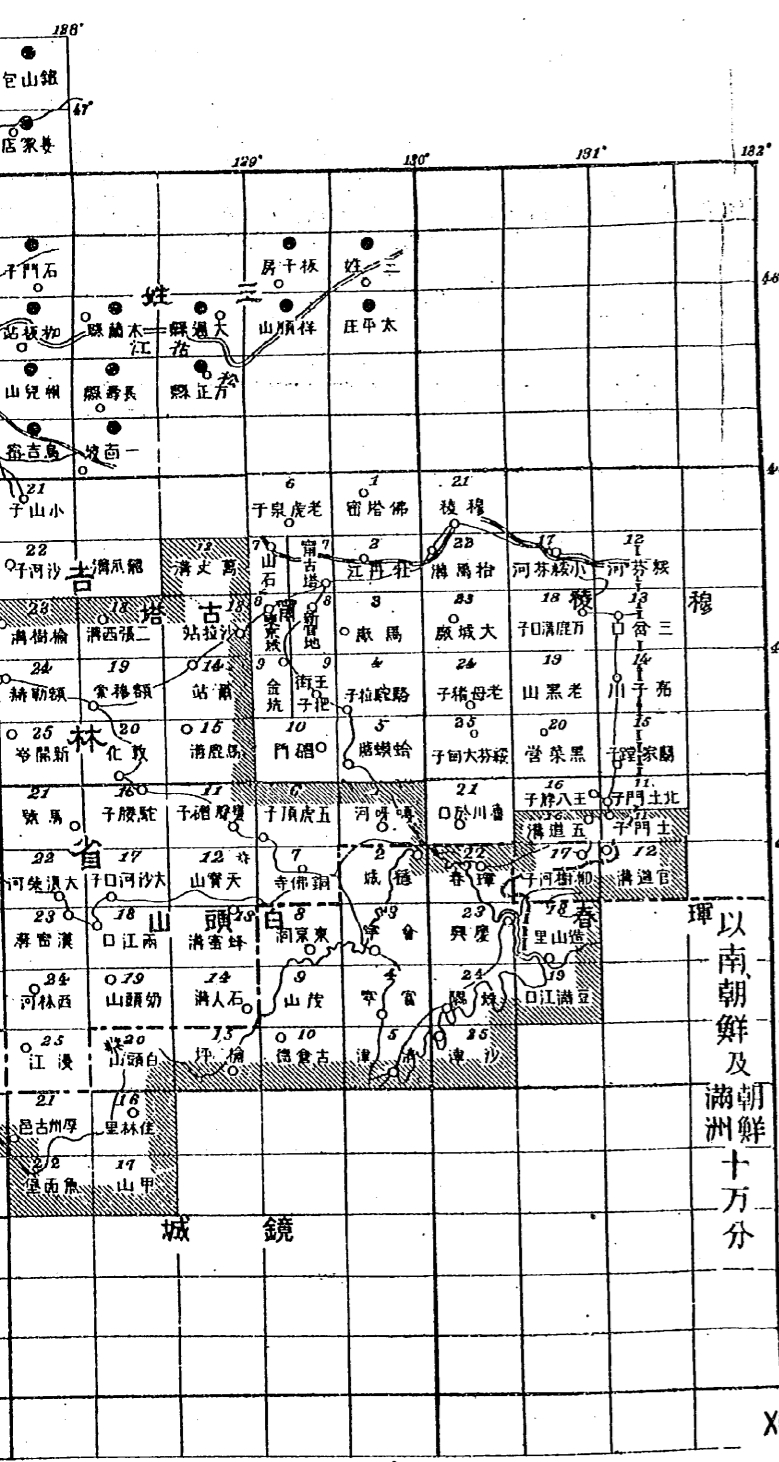
# 北 部 一 圖 覽

同 大 正 七 年 三 月 二 八 日 製 版 行 同 七 年 三 月 增 補 修 正

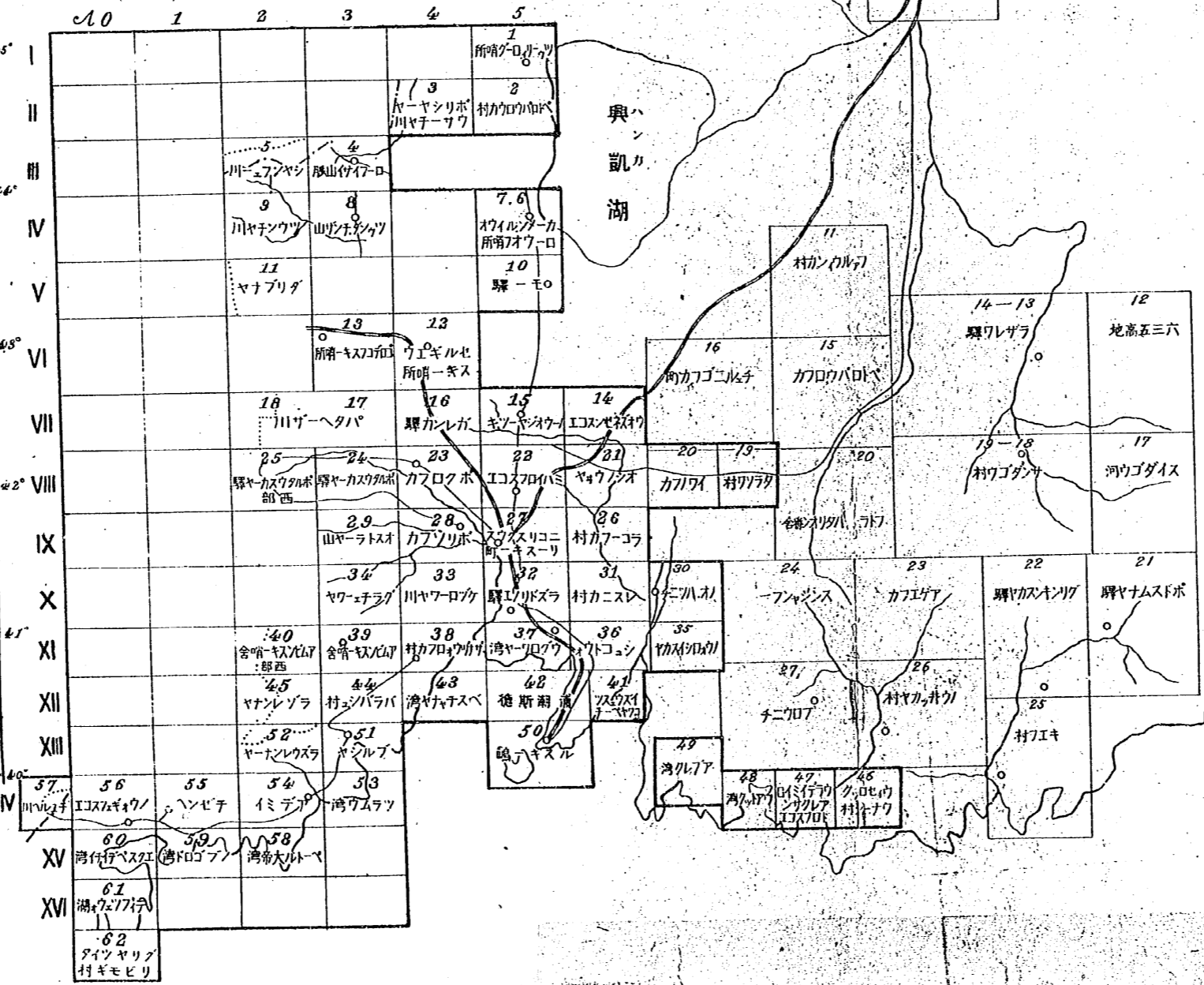
### 東 亞 五 十 萬 分 一 圖



### 蒙 古 十 萬 分 一 圖



鳥蘇里方面  
圖一分万五



鳥蘇里方面  
十萬分一圖

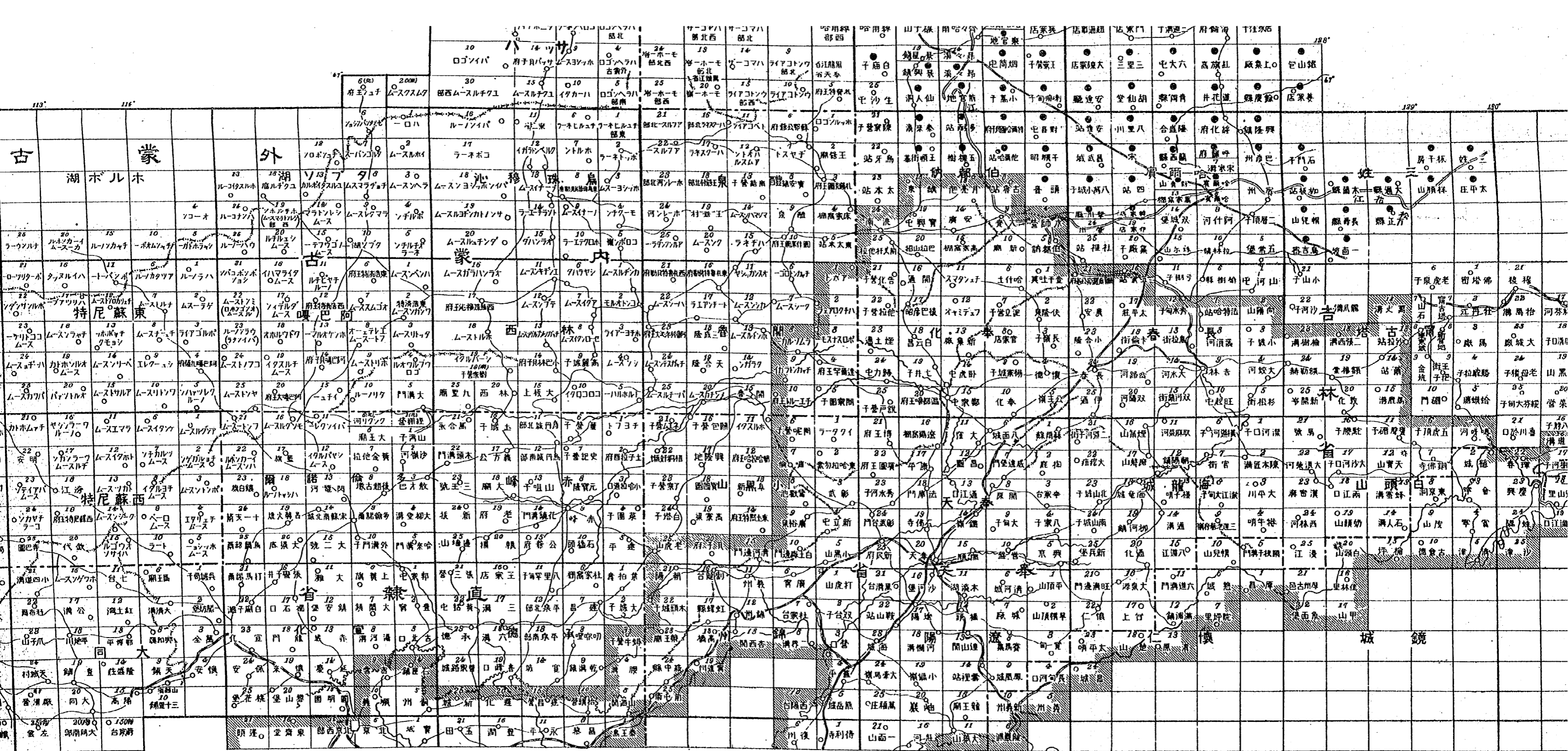
臨時外交調査委員會

0110

4 2 6  
ヤウーログウ ガーボバムア カーヨリウエシ

露版浦爐





0110

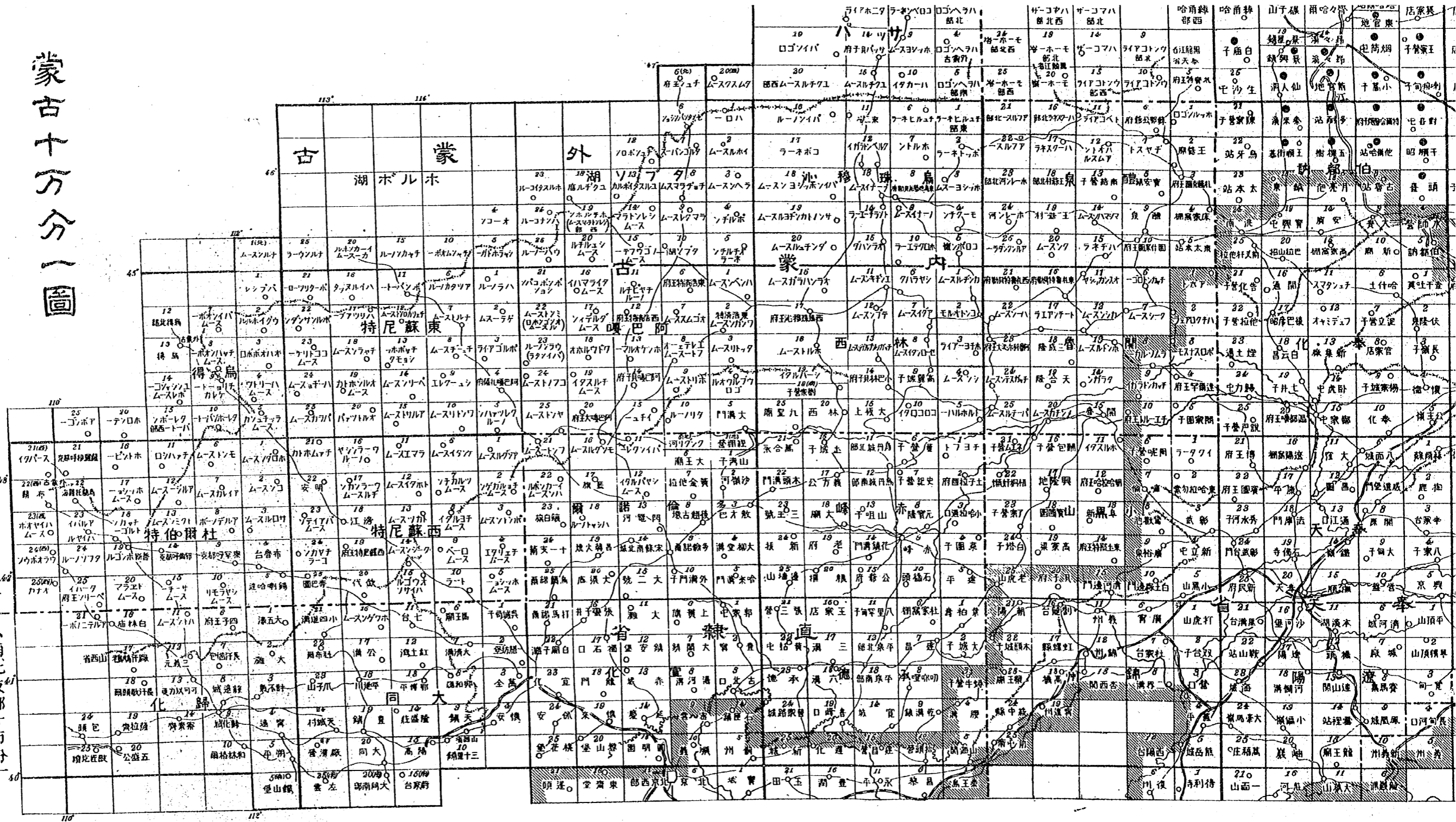
0110

蒙古十万分一圖

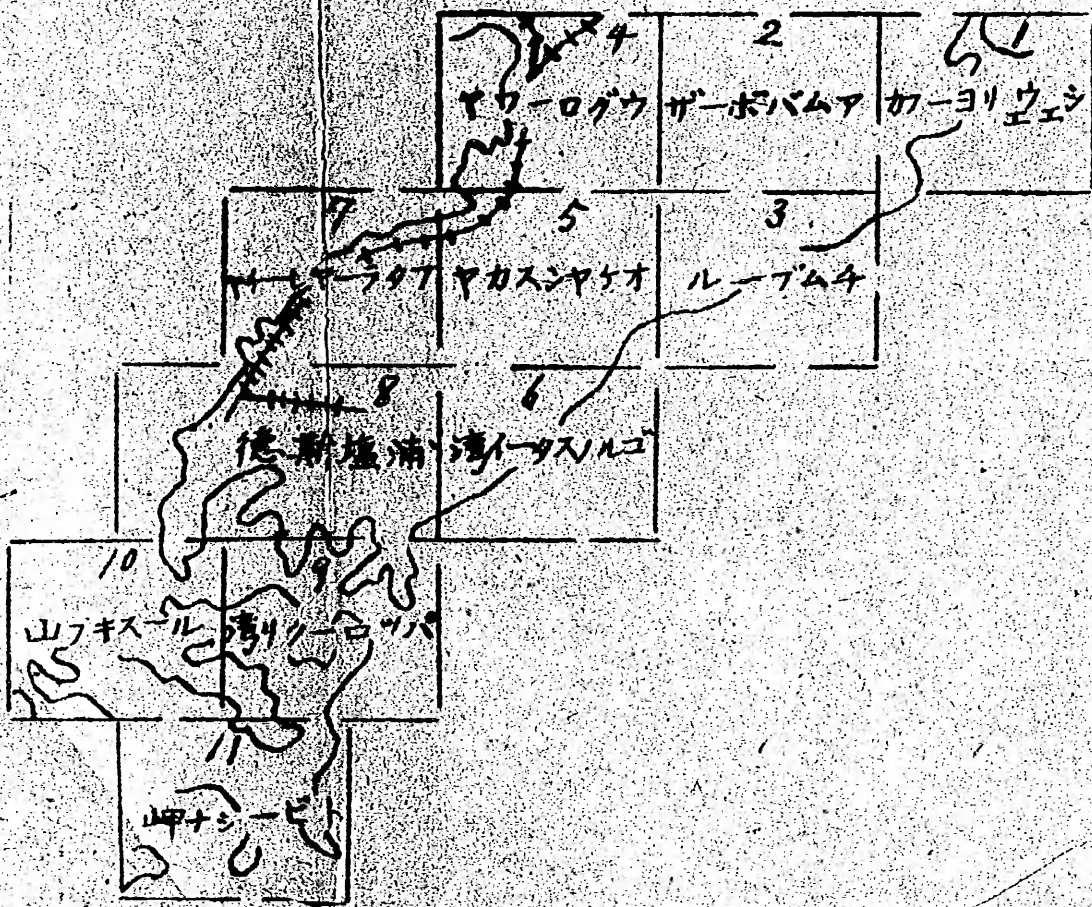
以北蒙古十万分一

以南蒙古十万分一

陸地測量部 參謀本部



露版浦塩方面二万五千分一圖一覽



0115

0116

別紙第二

秘天第二六號